

## アジア養蜂研究協会



### 第3回 AAA 大会 セカンドサーキュラー (抜粋)

挨拶：アジア養蜂研究協会第3回大会の組織委員会を代表し本年10月6日(日)～10日(木)にベトナムハノイ市、ホーチミン博物館で開催される会議に皆様をお招きしたい。

当協会はアジア地域の多様な在来種ミツバチを守り、地域に根ざした持続可能な養蜂と、導入されたセイヨウミツバチによる養蜂との協同的發展を目指しており、ベトナムの首都ハノイに世界各地から研究者、養蜂家、事業家など多様な関係者が集まり、忌憚のない意見を交換し、交流を深める本大会はその目的にかなう貴重な機会であると確信する。

また、ハノイ市内やその近郊にはお楽しみいただける多くの観光名所がある。更に小旅行に参加されればベトナムの古い歴史、活気に満ちた人々の姿や美しい自然を十分に堪能していただろう。初秋のハノイでお目にかかれるよう、皆様の訪問をお待ち申し上げます。

農業食糧産産省

農業村落開発担当次官 ゴ・テ・ダン

トウヨウミツバチ蜂場見学旅行：10月10日の一日見学旅行はハノイの南西約100kmク・フン国立公園にあるク・フン地区訪問と決定した。人口約2千8百人の9割以上が少数民族のムオン族で、ニンビン省でも最も貧しい地域である。農業だけでは家計を支えきれず、付近に豊富な養蜂植物があることから野生のトウヨウミツバチを捕え、家のまわりにおいた丸太巣箱や、トッパー式巣箱で飼い家計と栄養を補う習慣が伝統的であった。

しかし彼らの蜂群管理技術はハチミツの収穫程度に限られ、その飼養蜂群は弱く、維持が難しかった。ミツバチ研究開発センター (BRDC)

は新しい養蜂技術の導入を期待する同地区の声に答えるため、ドイツ開発協力事業団 (DED) と協力して1994年からトウヨウミツバチによる家庭養蜂振興事業を開始した。その結果蜂群飼養家庭は開始時の8戸から50戸以上に、蜂群数は12群から305群に、更にハチミツの収穫は20kgが約1.2tと大幅に増加した。今回の見学旅行ではその様子を紹介したい。

また1967年にベトナム最初の国立公園と指定されたク・フン国立公園には217科987属にわたる多様な植物相があり、幹の直径5～6m、高さ40～70mにもなる、珍しい種類の巨木も見ることができる。動物相もほ乳類64種、鳥類137種、は虫類36種、両生類17種を数え、もちろん昆虫も多種多様である。

限られた時間ではあるが公園で観察をお楽しみいただきたい。

展示会：ミツバチ生産物、参考図書、養蜂関連機器などの展示ブースを用意する。4×2mのブースは白塗りのベニヤ壁(3面)、机、椅子、220v電源付き、賃貸料はUS\$500。

登録方法：登録料は宿泊費等と共に参加申し込みと同時に銀行振り込み。1996年8月30日までUS\$150、同伴者US\$100、8月31日以降はUS\$200、同伴者US\$150。

セカンドサーキュラー(英文、和訳つき)をご希望の方は次へご請求下さい。

〒194 町田市玉川学園6-1-1 玉川大学ミツバチ科学研究施設内アジア養蜂研究協会  
(担当：榎本ひとみ) tel/fax: 0427-39-8685

帰途アンコールワットに寄るなど、手軽に多くの方にご参加いただけるよう大会参加ツアーも計画中。お問い合わせは下記まで：

(株)アサヒトラベルインターナショナル

担当：田中 国智・石川 重一

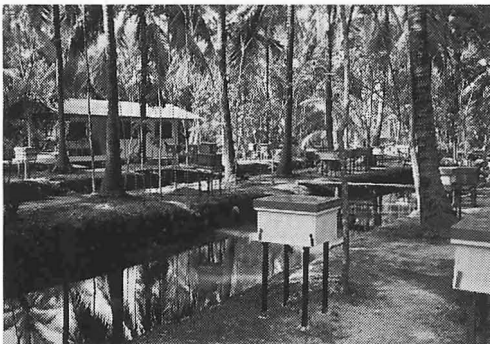
tel: 03-3291-4041

## 研究施設紹介 (4)

チュラロンコン大学ミツバチ生物学研究施設  
ミツバチ生物学研究講座 (Bee Biology Research Unit / BBRU, Faculty of Science, Chulalongkorn University, Bangkok 10330, Thailand) は伝統あるタイ国立チュラロンコン大学の理学部昆虫学研究室の一翼を担っている。タイの近代的昆虫学研究は20世紀初頭に始まり、チュラロンコン大学では1935年に初代昆虫学教授として Prof. K. Vajaropala が就任した。養蜂研究のためにチュラロンコン大学は1940年代にセイヨウミツバチを輸入したが、維持できなかった。国立カセサート大学もイタリア種を導入した(1953)との報告があるが、タイ国内で産業としてのセイヨウミツバチ養蜂が成立するのは1970年代からである。

1980年にチュラロンコン大学でのミツバチ生物学研究が再開、83年に最初の報告(タイ南東部、チャントブリ県のコヤシ農園のミツバチとその養蜂の研究)を出した。翌84年にはBBRUが開設され、附属研究蜂場がサムットソクラン県とピスンロー県に作られた。後者は現在ナレスワン大学のミツバチ研究にも利用されている。

目的: BBRU はミツバチの生物学上の諸問題の研究と、発展途上国のミツバチ関連産業の経済的向上のための諸問題の解決をめざして設立された。関連分野の学生、従事者、研究者に対する支援と、ひいてはタイ国内外の科学研究、出版、研修事業等の振興を求めている。



ココヤシ園内のトウヨウミツバチ研究蜂場



トウヨウミツバチの人工授精

### 研究テーマ (1994—1997):

1. アジアのミツバチとダニ類の多様性 (遺伝学的, 種, 生態学的各レベル)
2. ダニ類, ハチノスツリガ, チョーク病その他のミツバチ病害敵の生物学的防除
3. アジア原産のミツバチとダニ類の DNA 分析に関連した分子生物学
4. ダニ類に有効な天然殺虫剤の毒性

活動組織: 研究プロジェクトはすべてチュラロンコン大学理学部生物学科昆虫学研究室ミツバチ生物学研究施設に属し、さらに内容に応じて研究室(女王蜂, 雄蜂の人工養成, 優良系統の選抜, 女王蜂の交配, 観察研究, 研修)と研究蜂場(寄生ダニ研究, 抵抗性試験, 農薬毒性試験, 人工授精, 養蜂研修)にわけられる。ピスンロー研究蜂場はミツバチ生物学研究, サムットソクラン研究蜂場はトウヨウミツバチ研究を行い、その周辺では野生のオオミツバチ, コミツバチ, トウヨウミツバチが多数見られる。

教授陣:

P. Tangkanasing 教授・主任 (ハチ寄生ダニ)  
S. Wongsiri 教授 (ミツバチ生物学)  
C. Lekprayoon 助教授 (ハチ寄生ダニ, 生殖機構)  
S. Jayaswasti 助教授 (分類学, 刺針形態学)  
K. Thirakhupt 助教授 (生態学)  
S. Vongsmanode 講師 (ミツバチ生物学)  
D. Sithicharoenchai 講師 (毒物学)  
S. Deowanish 講師 (ミツバチ生物学, 玉川大学へ留学中)

BBRU での研究機会はチュラロンコン大学昆虫学専攻の大学院生の外にタイの他機関の研究者, 外国からの交換留学生にも与えられる。